



プログラミング入門

1年後期／教養教育部門

プログラミングの前に学ぶ入門編

— この「プログラミング入門」は、どのような講義ですか。

プログラミングを始めた人に向けた、基礎的知識を広く学ぶ講義です。情報技術を扱う職を目指す人、システムの設計やマネジメントで活躍したい人が知っておくべき基本的な知識を身につけるための、入門的な内容です。講義名に「プログラミング」とありますが、実際にプログラミングを実施してもらうことは想定していません。手を動かす前にまず知っておきたい基本的な知識や前提情報をしっかりインプットすることで、プログラミングを学び、実際に書いていくための土台をつくることを目的としています。

講義の前半は、プログラムがどのように開発・運用され、保守されているかを解説します。講義の後半には、表計算・アセンブラー・pythonといったプログラミング言語とその開発環境について、それぞれの特徴や違いについて解説します。プロジェクト管理の理解も深めていきますので、情報系に就職したいと考えている人はもちろん、それ以外の学生も、これから時代を生きていくのに必要な基礎的な考え方を学んでもらいたいと思っています。また、この講義は「基本情報技術者」試験の受験を目指す人の受験対策にもなっていますので、ぜひ試験にも

挑戦してほしいです。

— 「基本情報技術者」試験とは、どのようなものですか。

「基本情報技術者」試験は、情報系の会社に就職すると高確率で受験を勧められる、とてもメジャーな資格です。試験時間は長いですが全て選択問題なので、解答のハードルは低めです。
就職先の業界にかかわらず、在学中に受験しておくことをおすすめします。欲を言えば「応用情報技術者」試験にもチャレンジしてほしいですね。難易度は上がりますが、情報系企業への就活がきっと有利になるはずです。

情報・数学・経済を学び深めてほしい

— 学生には都市情報学部で、どんな学びを深めてほしいですか。

私たちは今、数学に価値を担保される「情報」という不思議な商品が社会に大きく存在する、新しい時代を生きてています。これから時代を切り拓く学生のみなさんには「情報」「数学」「経済」を特に意識して学んでいただきたいです。これらは、都市情報学部だと、就職先の業界だと、そういうことに関係なく、これから大きく変革していく未来を生きるためにとても重要な学問だと思っています。

人月の神話【新装版】

Frederick Phillips Brooks, Jr. (丸善出版)

ソフトウェア工学とソフトウェアプロジェクト管理についての名著。多くの大規模プログラム開発プロジェクトが“失敗する理由”が書かれているエッセイ集で、プログラマーの必読本です。初版は1970年代ですが、今の時代にも通ずることばかり。大規模プログラム開発の困難さが、50年間変わっていないことがわかると思います。



学生の声 /

基本情報技術者試験の基礎知識が身につくと聞き、受講しました。これから時代に必要な情報処理知識や経営知識について学べます。企業のマネジメントに関する内容は、社会に出たときに役立つぞうだと感じました。講義の最後に基本情報技術者試験の過去問が配布されるので、記憶の定着に役立っています。

佐郷 幸多さん(1年生)

